

令和5年8月1日

丸森町役場 復興対策室

丸森町における被災者支援の取り組み

～ 誰一人取り残さない 日常の取り戻しに向けて ～

1 降雨量と河川の水位

- 令和元年10月12日昼から台風19号により、仙南、仙台、大崎地域を中心に大雨となり、河川の増水や浸水、土砂崩れが発生した。
- 降り始めからの総降水量は、仙台(仙台市)で383.5mm、丸森(丸森町)では、427.0mmを観測し、10月1ヶ月分の平均値の2～3倍の雨量となった。特に、**筆甫(丸森町)では、594.5mmとなり、既往最大の豪雨を観測。**
- 気象庁は**10月12日19時50分に宮城県に大雨特別警報を発令した。**

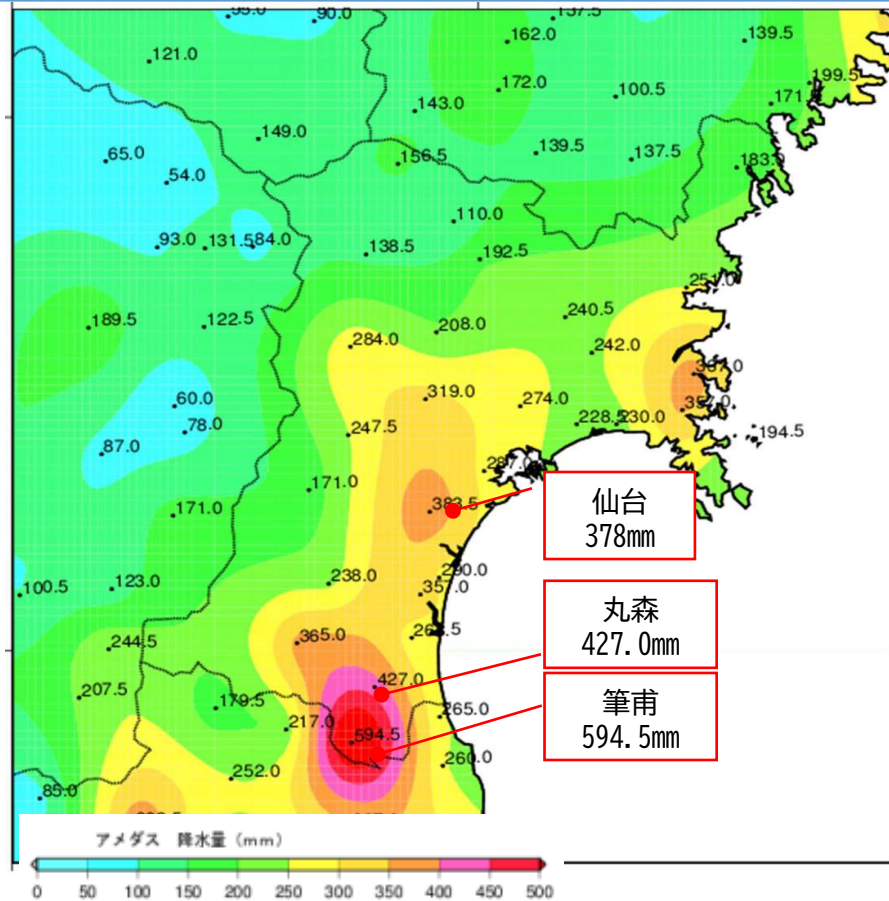
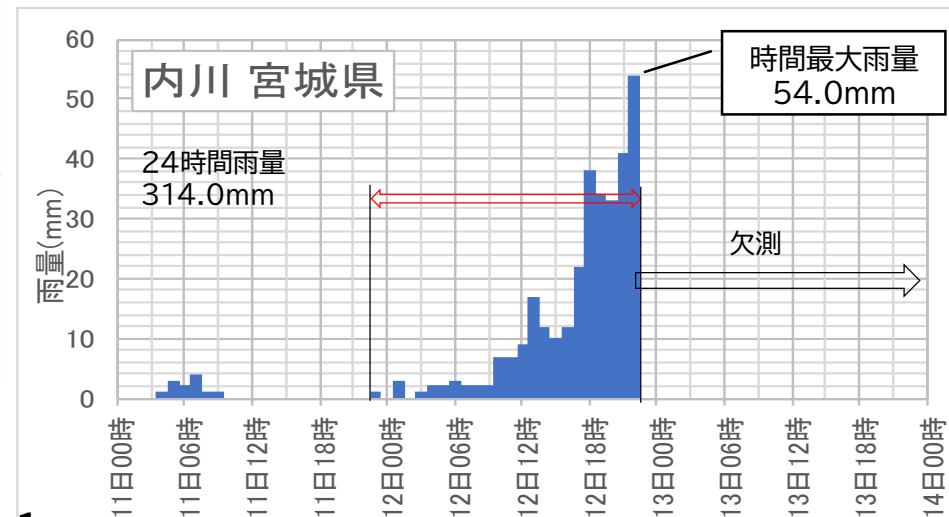
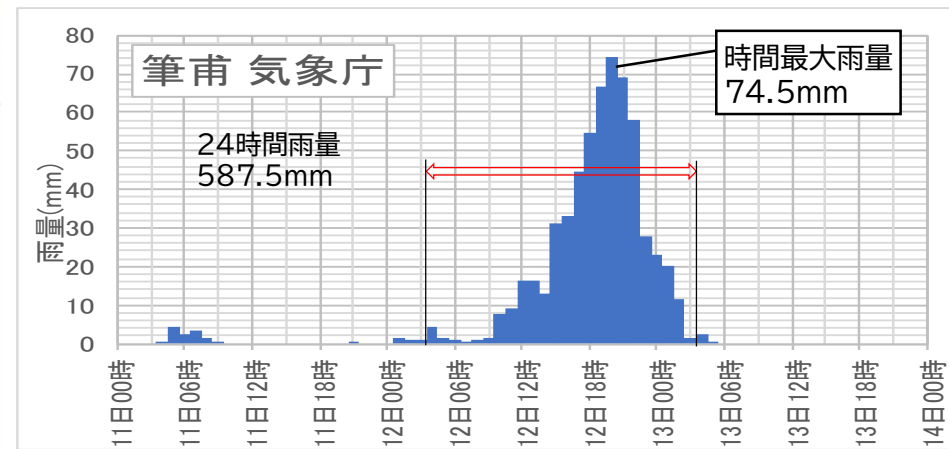


図:10月11日15時から13日9時までの総降水量
(単位:mm)

出典:仙台管区气象台資料 宮城県資料



1 降雨量と河川の水位

町内観測所 位置図

雨量観測所

水位観測所

町内6箇所の雨量観測所の全てで過去最大の雨量を観測し、大内観測所では、最も多い総雨量612mmを観測しました。

河川の最高水位は、阿武隈川で降り始めから8.56m上昇し23.44m、雉子尾川で降り始めから6.74m上昇し7.11mを記録しました。県が管理する内川、新川及び五福谷川では計18箇所が決壊し、各地で被害が発生しました。



2 被害の概要

(1) 人的被害

死者	災害関連死	行方不明者	けが人
10名	1名	1名	2名

丸森地区子安



2 被害の概要

(2) 家屋調査の状況（令和4年6月30日現在）

・全壊	1 1 5 戸
・大規模半壊	2 4 8 戸
・半壊	6 3 3 戸
・準半壊	1 4 戸
・一部損壊	3 3 2 戸
合計	1, 3 4 2 戸

丸森地区 五福谷



2 被害の概要

(3) 避難所の設置 14か所 避難者数 545人

丸森小学校



※2020/10/25
(最大)

町内にプレハブ応急仮設住宅が完成し、令和元年12月29日にすべての避難所を閉鎖。



3 災害復旧・復興の状況

(1) プレハブ仮設住宅の建設状況 6団地 208戸



団地名	建設戸数	入居開始日	入居世帯	
			世帯数	入居者数
①花田仮設団地	68	R1.12.21	10	13
②金山仮設団地	29	R1.12.24	0	0
③寺内仮設団地	60	R1.12.21	12	21
④町西仮設団地	24	R1.12.23	4	8
⑤和田仮設団地	12	R1.12.26	1	2
⑥大館仮設団地	15	R1.12.26	2	2
	208		29	46

※R5.6.30時点

- ①県がプレハブ建築協会へ業者斡旋を要請
 - ②斡旋された業者が建設
 - ③県と斡旋業者がリース契約を締結
 - ④町と入居者が使用貸借契約を締結
- ◇入居者の家賃負担はない。

※仮設住宅の供給は災害救助法に基づいており、建設等の財源は全額災害救助費（国庫）となる。

※金山仮設団地は全入居者が退去したことに伴い解体・撤去済

(2) 被災者見守り・相談支援事業

町社協等の5団体に業務委託。町や各団体の中で被災者の生活再建にかかる情報や課題を共有し、より多面的な被災者支援を行う。

令和2年1月から継続

①丸森町社協地域支え合いセンター…**仮設住宅や在宅の被災者の個別支援**

○戸別訪問による見守り・相談支援

- ・巡回や訪問を通しての見守りや声掛けおよび相談支援を行っている。
- ・生活や再建に課題のある世帯について、関係団体と情報共有し、適切な再建支援を検討する。

○プレハブ仮設団地の住民活動支援

- ・清掃活動等、住民による各種イベントの支援



令和3年4月より委託（令和2年度までは自主事業として実施）

②NPO法人オペレーション・ブレッシング・ジャパン(OBJ)

…主に日中在宅のプレハブ仮設団地高齢者のグループ支援

○プレハブ仮設団地等のサロン運営

- ・ 町内の各仮設住宅で毎週サロンを実施
- ・ 誕生日会やプランターの栽培等、入居者のニーズに合わせた各種イベントの実施

○町内ボランティア育成支援

- ・ サロンや各種イベントを町内ボランティア団体と連携しながら運営

など

③一般社団法人まなびの森…主に子ども子育て世帯のグループ支援

○こどもの居場所づくり

- ・ 月3回程度週夜間の学習支援を町内2箇所を実施

○子ども食堂

- ・ 月に1回無料の子ども食堂を学習支援の時間に合わせて実施

など

サロンの様子(寺内仮設団地)



丸森みらい食堂の様子(丸森まちづくりセンター)



令和3年5月より委託

④株式会社ばとん…地域コミュニティ支援

○被災地域のコミュニティ再生支援

- ・町営竹谷住宅の住宅会の交流促進
- ・地区住民と連携した自治の仕組み作りの支援や
若手担い手育成支援を通してコミュニティの再生を目指す

など



令和4年4月より委託

⑤一般社団法人東北まちラボ…町営住宅・災害公営住宅コミュニティ形成支援

○災害公営住宅等の新コミュニティ形成支援

- ・災害公営住宅等入居予定者の住民活動の支援
- ・災害公営住宅等入居予定者と地域住民の交流促進

今後の予定	内容
住宅会設立 (令和5年6月以降)	住宅会設立し地域活動を具体的に進める
2つの住宅会の連絡会を設立 (令和5年9月以降)	2つの住宅会の連絡会を設立し住宅会の連携が図れるようにする

令和5年度被災者見守り・相談支援事業

委託

丸森町（各種施策）

行政事業

- 丸森町社協地域支え合いセンター R2.1～**
 ※個別支援・・・仮設住宅や在宅の被災者
 ○戸別訪問による見守り・相談支援
 ○プレハブ仮設団地の住民活動支援 など
- NPO法人OBJ R3.4～ R2年度は自主財源**
 ※グループ支援・・・主に日中在宅のプレハブ仮設団地の高齢者
 ○プレハブ仮設団地等のサロン運営 など
 ○町内ボランティア育成支援 など
- (一社)まなびの森 R3.4～ R2年度は自主財源**
 ※グループ支援・・・主に子ども子育て世帯
 ○こどもの居場所づくり など
 ○こども食堂 など
- (一社)東北まちラボ R4.4～**
 ※町営住宅・災害公営住宅コミュニティ形成支援
 ○災害公営住宅等の住民会設立支援 など
- (株)ばとん R3.5～ 町企画財政課で公募選定**
 ※地域コミュニティ支援
 ○被災地域のコミュニティ再生支援 (町営竹谷住宅を含む) など

被災者支援
関係者会議

こども会議

地区被災者支援会議
※地域協働で再建を確認

- みなし仮設入居世帯
- プレハブ仮設入居世帯
- 在宅被災者(半壊以上)

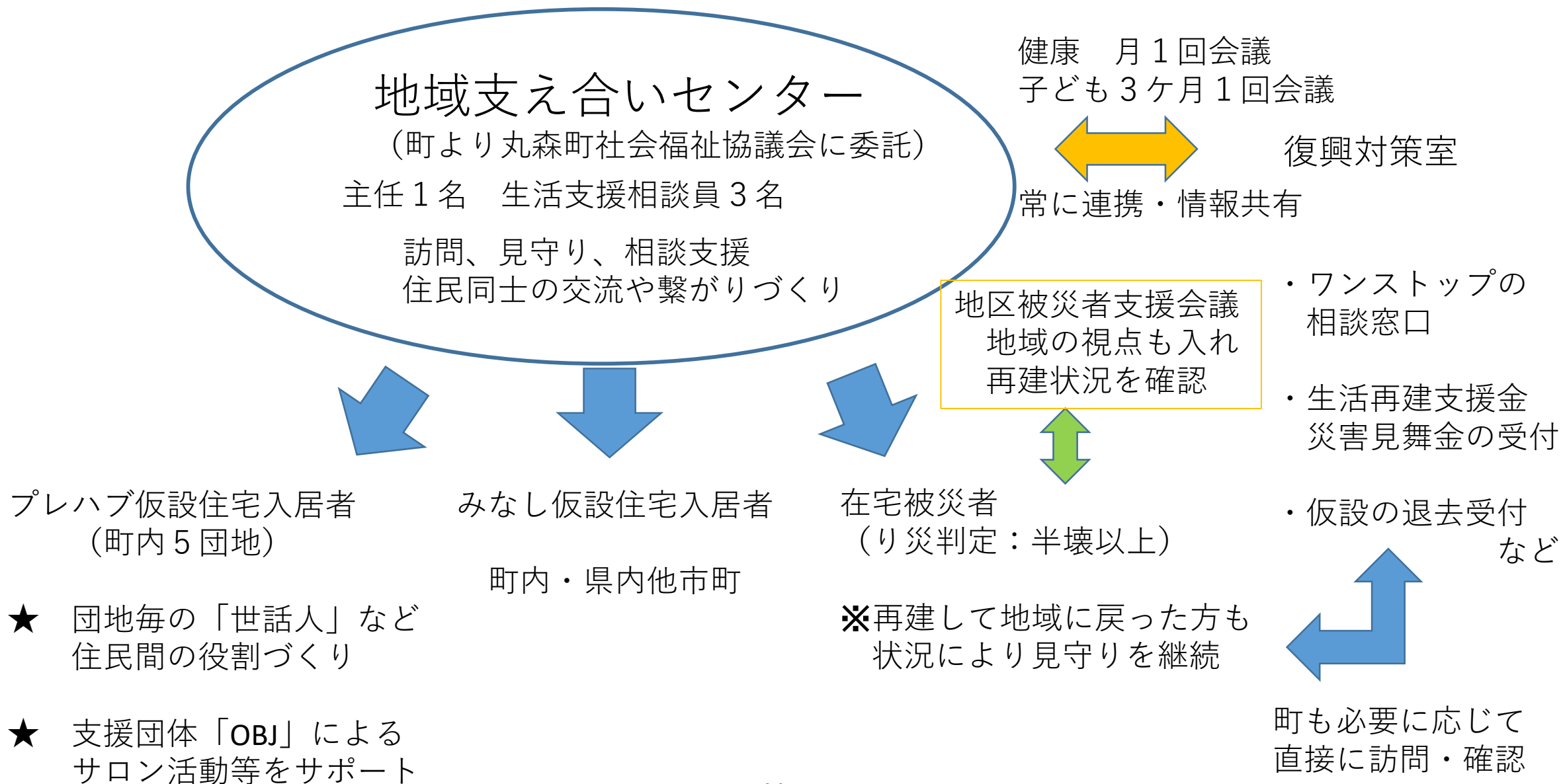
町内子ども子育て世帯

生活再建

- 災害公営住宅
- 再建町営住宅
- 既存地区



被災者見守り・相談支援事業



情報共有と課題解決に向けた定例の会議開催

○地域支え合いセンターによる訪問など

○被災者支援室など役場への相談など

役場・センターで共有・検討

被災者の健康面、その他について

被災世帯の児童生徒、保護者について



◆ 被災者支援関係者会議

R 2 当初月 2 回、現在月 1 回

メンバー

- ・センター生活支援相談員
- ・役場関係課（復興対策室、保健福祉課他）
- ・丸森病院
- ・消防署、警察署 等



◆ こども会議

R 2～R 3 月 1 回、R 4～3 ヶ月 1 回

メンバー

- ・センター生活支援相談員
- ・役場関係課（復興対策室、保健福祉課他）
- ・小、中学校（仮設の生徒が通学する学校）
- ・支援団体（まなびの森）

○情報を共有し、必要に応じて個別のケース会議開催や専門的な支援

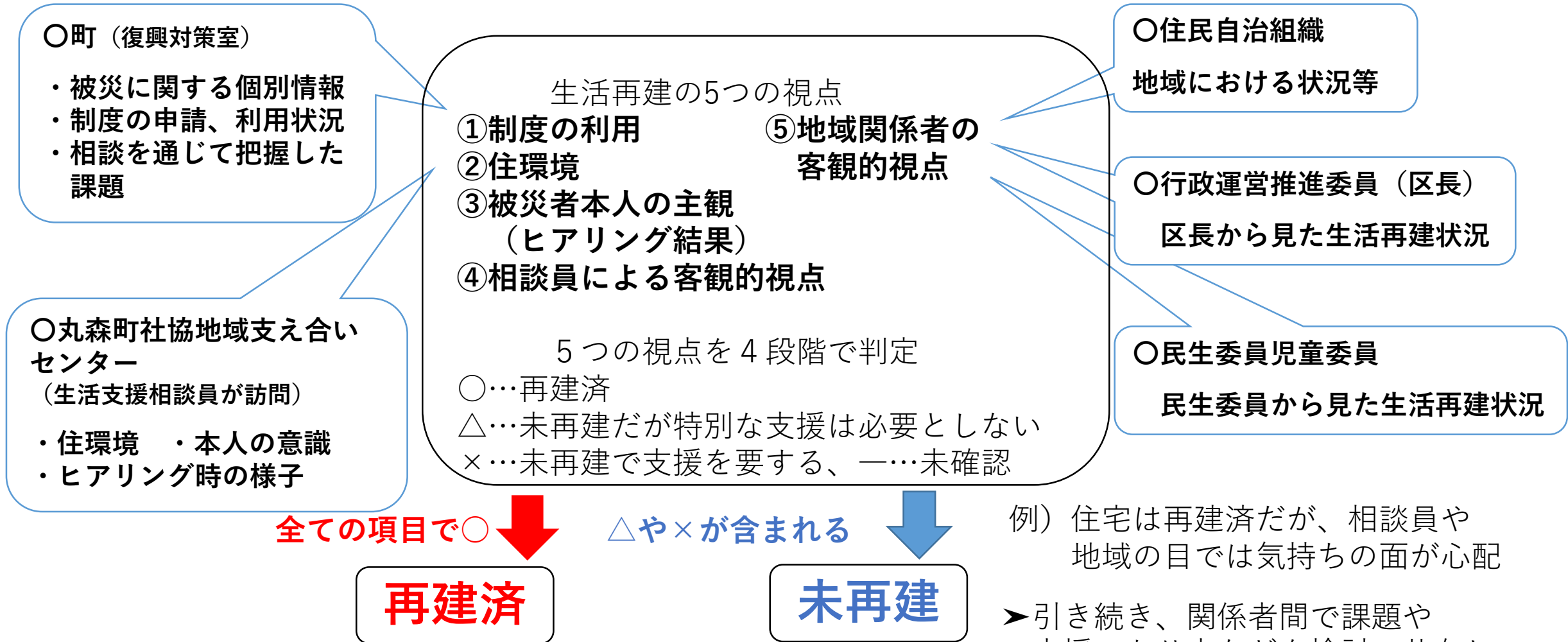
○支援・課題解決において、関係者で役割分担

（この他、役場庁内の関係者による「復興対策会議」を随時開催）

地区被災者支援会議

～生活の再建、日常の取戻しに向けて～

地区毎に、半壊以上の世帯及び仮設住宅から住まいを再建した世帯を地域と協働で確認



被災者の生活再建の状況

令和元年10月12日

被災世帯数 867世帯

プレハブ仮設 187世帯
みなし仮設 103世帯
在宅被災者 577世帯



令和5年6月30日

生活再建済の世帯 616世帯 (71%)

プレハブ・みなし仮設117世帯、在宅被災者499世帯

※住宅の再建に加え、本人が再建を実感しているか、地域から見て生活が回復したか等、複数の視点で「地区被災者支援会議」において“生活の再建”、“日常の取り戻し”を確認できた世帯

未再建256世帯のうち、特に見守りが必要な131世帯に見守り・相談を継続。

被災者支援活動の広がり

これまでの町内の関係者や各種団体との連携を通して、委託団体を中心に行っていた被災者見守り・相談事業を発展させ、様々な被災者支援活動を実施しました。

令和4年10月22日（土）熱気球搭乗体験「復興フライト」 ～被災者への心の復興を目的とした取組～

復興に向けて変わりゆく町を上空から眺め、改めて町の美しさを感じてもらうため、熱気球搭乗体験「復興フライト」を行いました。町社協（地域支え合いセンター）を中心に丸森地区協議会や民生委員・児童委員の協力により、下は1歳、上は86歳の方まで、約200名がひとときの空中散歩を楽しみました。



令和4年11月3日（金）「ボッチャ交流会」 ～地域との連携による被災者の見守りを目的とした取組～

仮設住宅の入居者や、被災者支援事業に参加している子どもたちなどが集まり、年代を越えた交流を目的として「ボッチャ交流会」が行われました。委託団体「NPO法人OBJ」、「地域支え合いセンター」、「(一社)まなびの森」に加え、「丸森地区協議会」や地元支援団体によるカフェや婦人会特製のカレーライスが振舞われるなど、地域との連携協力により交流を深める取組を行いました。



令和5年3月24日（金）アートイベント「色のなる木を描こう」 ～被災児童への心のケアを目的とした取組～

被災者支援事業（こども子育て世帯支援）移動教室に参加している子どもたちを対象に、ポジティブな小児期体験を提供することを目的にアートイベント「色のなる木を描こう」が行われました。

「NPO法人ポラリス」を講師に迎え、委託団体「社協（地域支え合いセンター）」、「（一社）まなびの森」に加え、地区協議会とも連携した取組を行いました。



今後の展望（令和5年4月）

住民自治組織や地域における
“**共助力**”の高さにより、多面的に
被災者の状況を確認

- 災害公営・町営住宅など住み慣れた地域外での再建世帯には個別状況を踏まえた丁寧な支援に加えて、定着への支援や新たなコミュニティ形成が重要に

被災者支援の取り組みとともに、
町や地域の課題も顕在化

- 支援の経過や仕組み、活動を通じて形成された関係や成果を様々な地域の課題解決やまちづくりにも活用
- 被災者支援を地域支援にソフトランディング

被災者支援の終了に向けての
最終再建確認

- 再建確認を行い支援終了としたプレハブ、みなし、在宅被災者の最終再建確認をして被災者支援事業を終了する
- 最終再建確認で新たな課題がある世帯については関係機関へ引き継ぎを行う